

# 令和7年度 学校自己評価システムシート

本庄東高等学校附属中学校

目指す学校像	建学の精神 本校は人間の尊さを教え、社会に期待される素地をつくり、人生に望みと喜びを与えるところである 教育方針 一貫校である本校の特色を生かした「自らが考え、判断できる、知と心を備えた聡明な人材」の育成
重点目標	1. 知的好奇心を育て、学習習慣を確立し、確かな学力を身につけさせる。 2. 幅広い視野を持ち、生徒一人一人が、自ら職業観を育てる。 3. 礼儀やマナーを大切に、自他を尊重できる人間関係を促進する。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度目標					年度評価 (3月31日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	今後への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>知的好奇心を高めて、社会の中で有益な思考力・表現力を育む教育を継続し、主体的・対話的で深い学びを更に充実させていく。そして、入試にも対応できるよう授業実践を行う。</li> <li>確かな学力を身につけさせるため、授業での学習理解度を自らで確認できるようにさせ、授業・家庭学習での目標を明確にし、目的意識を高めさせる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が授業や学習に対して前向きに取り組むことができたか。</li> <li>学習に対する意識を高めることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3学年縦断型の授業で、活動的多元的学習であるA I Lを更に発展させる。</li> <li>各教科における授業での教科横断的な内容を用いる授業の工夫を更に実践する。</li> <li>学習状況チェックノートの活用を徹底し、生徒の学習活動に対する理解を更に深め、主体的に時間管理ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A I Lを通して、学習に対する積極的な姿勢や意欲、目的意識を持つことができたか。</li> <li>生徒が学習状況チェックノートや学習手帳を利用して理解不足の点を明確にすることができるよう指導し、改善することができたか。</li> <li>家庭学習での時間管理や授業準備がしっかりととなされていたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A I Lでは、思考力と対話を重視したテーマを設定した。答えが一つに決まらない課題に向き合う中で、生徒が複数の視点を行き来しながら考えを深める姿が、例年より多く見られた。また、学習内容相互のつながりに気づき、自分から学びを広げようとする様子も徐々に表れている。</li> <li>学習状況チェックノートや学習手帳の継続的な活用により、生徒は自分の理解度や学習の進み具合を把握しやすくなった。これらのツールは、教員とのやり取りを円滑にする役割も果たしている。学習面だけでなく、授業準備や課題連絡の共有にもI C T機器が効果的に用いられている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒がより幅広い分野に関心を持てるよう、教科横断的な視点を取り入れた学習指導計画を各教科で検討している。現段階では試行的な部分が残るため、実施後の振り返りを丁寧に行い、次年度の計画改善につなげていく。</li> <li>学習状況チェックノートや学習手帳を活用した自己管理の定着に向けては、引き続き個々の生徒に応じた声かけを行い、I C T機器との併用によって学習理解の促進を図る。また、今後も一人ひとりの状況に寄り添った支援を継続し、主体的な学習習慣の確立を目指す。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育の目的・目標を踏まえ、中学3年間での流れを意識して、各学年ごとの目標設定を明確にしていく。</li> <li>民間企業による特別授業を更に有効活用できるように情報の収集を行い、生徒により多くの業種を体験できるようにしていく。</li> <li>A I Lの活動を通し、入試に対応する力および、社会で必要とされる力を養っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業種の理解を深める取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1・2年生では企業の特別授業を活用し、世の中にはどのような仕事・業種があるのかを知り、自身の進路目標を明確化する。</li> <li>3年生では学問研究を通して、進路目標達成のための具体的な進路プランを考えていく。</li> <li>全学年を通して、学園祭の際に職業調べや大学の学問研究学習発表を行い、キャリア教育についてより理解を深めていく。</li> <li>A I Lを通して、全教科融合学習を実施し、思考力や表現力をつけていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より多くの成果を出すために、事前指導と事後指導が適切になされたか。</li> <li>生徒が目的を十分理解して取り組むことができたか。</li> <li>積極的で、かつ主体的に取り組むことができたか。</li> <li>対話的な深い学びができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年で企業特別授業を行い、生徒は多様な業種や働き方に触れた。企業の話を通じて、社会で求められる力への理解が深まり、進路選択の視野が広がった。</li> <li>学園祭では、仕事や学問の調査に加えて、ビジネスチャレンジやソーシャルチャレンジなど社会課題にも目を向ける機会を設けた。活動を社会と結びつけて考えることで、より具体的な将来像を描ききっかけとなった。</li> <li>A I Lの活動では、他学年との協働を通してコミュニケーション力が高まり、多角的な視点で意見を交わす場面が増えた。議論を重ねる経験は、進路学習における主体性の育成にもつながっている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業特別授業については、今年度の内容を振り返り、より効果的な学びにつながるよう精査した上で、次年度へ継続していく。</li> <li>学園祭のグループ学習では、社会とのつながりを意識したテーマ設定が定着しつつある。実施後の振り返りを通して改善点を検証していく。</li> <li>グループ活動では、すべての班が主体的に取り組める状態を目指す必要がある。中学生の発達段階や積極性の違いを踏まえ、活動の目的や進め方を事前に共有し、役割分担を柔軟に設定することで、全員が参加しやすい環境を整え、主体的・能動的な学びにつなげていく。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内外を問わず、更なるモラルやマナーの向上を目指し、周囲からも信頼される生徒を育てる。</li> <li>学校生活や学校行事を通して、クラス内の団結力や協力の大切さや感性豊かな生徒を育てる。</li> <li>危険回避がしっかりできる判断力のある生徒を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>信頼される生徒の育成</li> <li>人間性豊かな生徒の育成</li> <li>社会性のある生徒の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通して定期的に、生徒の現状を把握するために、スクールバスや駅での巡視をする。</li> <li>必要に応じて、学年集会や全校集会を実施する。</li> <li>外部講師による注意喚起・啓発をし、危険回避できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に巡視し、生徒の様子を把握し、正しい行動がなされているか確認する。</li> <li>学校生活のルールが守れているか、挨拶を積極的に行っているか。</li> <li>交通ルール等の社会的なルールがしっかりと守れているかどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>落ち着いた学校生活を送る生徒が多く、基本的な生活ルールも徐々に定着してきている。今後は、元気に挨拶できる生徒がさらに増えていくことが期待される。</li> <li>交通ルールや公共マナーについては、講話や日々の指導を通して意識が高まり、行動面にも改善が見られている。日常のふるまいを通して、上級生としての自覚や手本となる姿勢も育ちつつある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的な挨拶が定着するよう、教職員が率先して明るく挨拶し、生徒が声をかけやすい雰囲気をつくる。あわせて、日常的な声かけを通して意識づけを図る。</li> <li>S N Sの使い方やトラブル対策については、事例や新聞記事を活用してホームルームで継続的に指導する。家庭にもスマートフォン使用のルールづくりへの協力を改めて求め、学校と家庭が連携して意識向上を図る。</li> </ul>